

アカエゾマツの枝打ち

問 樹高9~10mのアカエゾマツ林を所有しております。枝打ちをしたいのですが、生長影響しない枝打ちの高さと、枝打ち実行上の留意点を教えてください。（北見、K生）

答 枝打ちの主目的は無節で完満な材の生産にあります。枝打ちの高さは無節材を何番玉まで採材するかにより、4mの整数倍の高さまで行います。

カラマツに比べてアカエゾマツは、強度な生枝打ちを行うと、生長への影響が大きい樹種です。

樹高9~10mの林分では、優勢木を対象に4mまで打ち上げても、生長への影響は少ないと考えられますが、それ以上打つと生長が減退します。もっともよいのは、樹高6~7mの時点で手の届く範囲の裾枝払いを行い、さらに、樹高9~10mになってから4mまで打ち上げることです。つまり、2回に分けて行うと生長を低下させず、無節部分を多く採材することができます。

アカエゾマツは強度な枝打ちを行うと萌芽枝が発生します。萌芽枝の発生を防ぐためにも弱度な枝打ちをくり返すべきです。

8mまでの枝打ちを行うためには、4mまで打ち上げてから10年以上の期間が必要です。したがって、無節材生産のためには伐期を長くしなければなりません。地位が良く、生長の良好な林分に限定した方がよいでしょう。

節の巻き込みの遅速は、残枝長、節径、枝打ち後の肥大生長量などに左右されます。巻き込みが遅れるのは残枝長が長く、節径が大きい場合で、とくに残枝長の影響が大きいようです。また、枝打ち後の肥大生長が旺盛なほど巻き込み期間は短くなります。残枝長を1cm以内にすていねいな枝打ちをすれば、巻き込みに要する年数はほぼ5年です。

また、枝打ちの際、幹に傷をつけるとヤニの流出や巻き込みの遅れにつながりますので、十分気をつける必要があります。とくに、片刃の鉋は幹に傷をつけやすいので、枝打ち用の鋸を使用の方が安全です。鋸を使用する場合、樹皮の切り残しがあると入り皮の原因になりますので、ていねいに打つ必要があります。

枝打ちの実行季節は樹液の流動休止期がよく、とくに厳寒期を除いた秋から春先が適当です。

枝打ち実行上の留意点は、強度な枝打ちをしない、枝元を残さずに幹に沿ってできるだけ平滑に打つ、幹に傷をつけない、林縁木は枝打ちしないことです。

（造林科 福地 稔）



写真 - 1 枝打ち1年後の巻き込み状態
（アカエゾマツ）



写真 - 2 枝打ち5年後の節の巻き込み
残枝長1cm
（アカエゾマツ）